



# 語り部通信

令和6年度春号（通算第39号）

福井市歴史ボランティア「語り部」

## 『福井といえばカニと恐竜』（駅西広場の広告パネル）にこう思う

令和6年度の全体会を経て新たなスタートを切りました。力を合わせて頑張っていきましょう。

さて、新幹線開業の朝、福井城址で記者の方から感想を問われました。そして翌日の新聞には、「カニや恐竜だけでなく福井の歴史を知ってもらえるチャンス。分かりやすく親しみを持って案内したい」と力を込めた。と掲載されました。わずかな言葉に語り部としての思いを端的に伝えていただけてうれしく思いました。駅周辺に恐竜が登場して福井市は明るくなり今やカニと恐竜は福井ブランドの最たるもので、感想は県が設置した花で彩られた広告パネルを受けてのものです。駅前大通りの歩道には笏谷石を使った恐竜の足跡も設置されました。

「岡田啓介や松尾伝蔵像のそばに恐竜が来てくれて良かったじゃない！銅像も見てもらえるよ」と言った「語り部」さん。さすがは時代を見据えたベテランです。

人間の歴史は、泥まみれの歴史、繁栄の歴史、色あせかかった歴史など多様性に富みます。誰も忘れてはほしくない。もっと知りたいはず。そう思って福井の歴史に誇りをもちたいですね。もうすぐ坤櫓の槌音が聞こえてきます。体力を養いガイドできる日を楽しみに待ちましょう。

### ■4年ぶりに新年会を開催

2月17日に4年ぶりに新年会を「ふく岡」にて開催いたしました。

継体天皇のグループ勉強会からは朗読劇の出し物もあり、和気あいあいとした賑やかなひと時となりました。



廣瀬局長挨拶

### ■北陸新幹線福井開業！

3月16日ついに「北陸新幹線福井開業敦賀まで延伸」となりました。福井駅周辺には新しく恐竜が設置され合計20体近くになりました。見事に恐竜王国福井を物語っています。語り部は福井城址に常駐。恐竜に負けず、桜の素晴らしさと共に、福井の歴史文化を発信していました。



### ■4月6日は城の日

(公財)歴史のみえるまちづくり協会として、福井県交通まちづくり課と共に、城の日イベントを開催いたしました。福井の近代の歴史を伝えるべく福井城のミニパネル展示をしました。また春嶽公と勇姫の顔出しパネルはお子様に大好評でした。



福の井で解説

### ■全体会・懇親会を開催

5月18日 県民活動センターアオッサ7階で令和6年度の全体会を開催いたしました。各委員会からの報告と計画、その他の令和5年度の活動報告と6年度活動予定また名称変更の提案も、ありました。グループ勉強会では、それぞれのグループが、活動について発表。今年度の参加者をたぐいま募集しています。



入会新人さんの自己紹介



城の日イベントの様子



懇親会の後、全員で撮影



全体会の様子

### グループ勉強会紹介

7グループあります。詳しくは全体会資料をご覧ください。  
※ガイドブック勉強会  
※越前の伝説  
※橘曙覧散策会  
※継体天皇のあしおと  
※坂本龍馬と春嶽公  
※山城の会  
※街道

## ブログ うららのまち「語り部」ふくい



活動の様子や福井の歴史を発信しています。



## ホームページ 歴NAVIふくい



ガイドや歴史講座などを紹介し、申込みを受け付けています。



## YouTube 福井の歴史を紹介



福井の史跡や歴史などを配信しています。



## よもやま話

## 名言の大好きな「語り部」 吉岡 栄雄

私は子供の頃から「名言」というものが大好きでした。いいなと思った言葉や文章を手帳に書き留めるのが習慣になっています。今度「語り部通信」の原稿依頼を頂いたので、手帳からいくつかを紹介することに致します。人さまが読んだら、名言とはちっとも思わないかも知れませんが。

**鳥は飛ばねばならぬ、人は生きねばならぬ「花ひらく 心ひらく 道ひらく」坂村真民著**

福井城址に雁木があります。ガイドの中でお客さんに「雁の群れが空を飛んでいく形が由来ですよ」と説明しています。そのときにチラッとこの名言が浮かびます。城門を守った武士たちも鳥を眺めて、そう思っていたのでしょうか。

**努力とは、いつか射してくる光を希望せず、闇の中を歩き続けることだ。光を外に求めるな。努力を続けると不思議なことに、おのれが光を発するようになる。人生の成敗は、それを信じるか信じないか、にかかっている。「馬上の星 小説馬援伝」宮城谷昌光著**

馬援という人物は、中国の後漢王朝初代皇帝の光武帝に仕えた武将。これを読んだあと、孫に「一生懸命に努力すると自分の体が光ってくるんだって。」と教えたところ、孫からは「スッゲーな！」と反応が返ってきました。

**桃李もの言わざれども、下自ら蹊を成す「史記」司馬遷著**

俳優の松坂桃李は、映画「雪の花」(2025年1月24日公開)で、幕末の福井藩の町医者笠原白翁を演じるそうです。彼の本名である「桃李」の文字を見たとき、ピンとききました。この名前を付けた私の同世代であろう彼の父親に対して、尊敬と親近感を覚えます。ちなみに故安倍総理が卒業した東京吉祥寺の成蹊大学もここからです。

**一日生きることは、一歩進むことでありたい「湯川秀樹歌文集」湯川秀樹著**

日本人初のノーベル賞を受賞した湯川秀樹博士が、これを座右の銘としたのは何歳頃からでしょうか。若い人が読んでも、中年であっても、私のような恥の多い高齢者であっても、それぞれにおいてズキンときますね。イヤー！「名言」って、ほんとに素晴らしいですね。

### 【編集後記】

100年に一度のチャンスといわれるふくいのみちの大変革！新幹線とともに多くの人々がやって来ました。では100年前は何があったのでしょうか…想いを馳せます。

### 【発行】

福井市歴史ボランティア「語り部」  
(公財)歴史のみえるまちづくり協会